

Echo

NO 1 2 0 平成 14 年 1 1 月 2 5 日

発行：(社)福島県臨床衛生検査技師会

〒960-1247 福島市光が丘1番地
福島県立医科大学附属病院検査部

発行責任者：比佐 哲夫

編集委員長 金子 隆子

TEL.024-548-4290

「基準範囲の共有化をすすめよう」

(社)福島県臨床衛生検査技師会顧問 三浦 裕(みうら ゆたか)

1. 「基準範囲」の共有化とは

かつては正常値と呼ばれていた。しかし、この言葉のもつ不確かさを避けるため、現在は基準範囲と呼ぶようになった。その作成法はNCCLS(アメリカ臨床検査標準化委員会)によって標準化され、これに則って作ったものが「基準範囲」である。従来の正常値をそのまま基準範囲とするのは言葉を言い換えただけで正しくない。しかし現状は多くのところただ単に言い換えているだけである。

さて、「基準範囲」の共有化というところが、検査室とBがあり、同じ測定系の検査法を用いているとしよう。そして、Aは既に「基準範囲」を作り、それを使っていたとする。Bは、精度度がある範囲内にあって、さらに、正確度もある範囲内で一致することが確認できたなら、Bは改めて自分のところの「基準範囲」を作らなくても、Aのそれを用いる(共有する)ことができる、ということである。むしろ、Bは自分のところで「基準範囲」を作っていない。作れば、標本の関係で少し違うものが出



るで
えて

範
はど
簡単
いま

来る。数値として出てきたそれを捨てることは難しく、Bはその違った「基準範囲」を使うことになり、それを避けなければならない。細かいことは述べないが、理論的にも正しくない。

2. あなたの検査室は

あなたの検査室の現状はどうですか？単に言い換えただけの基準範囲を用いていませんか？なぜ、いままで、自分の検査室の基準範囲(正常値)が必要だったか、わかっていますか？そして、それは誰がどのようにして作った基準範囲か、知っていますか？

認証標準血清(標準法によって値付けされた血清)が無かった時代は正確度を合わせることが出来なかった。つまり、正確度は検査室ごと違っていた。だから、利用価値の高い正常値(基準範囲)は自分たち(たぶん、みなさんの先輩たち)が作らなければならなかったし、それを作ることが臨床の役に立つ検査室になることであつたのです。多様な基準範囲(正常値)が検査室ごと存在する最大の理由が、ここにあった。

3. いま、しなければならないことは

臨床の医師は「基準範囲」の共有化を待っています。同じ検査データが出るのに、基準範囲が検査室ごと違うのは明らかにおかしい。もはやそれは時代錯誤であり、何より今検査室を

背負っているあなたの責任である、といってもよいでしょう。認証標準血清は入手できる。検査室は既に現実に存在している。もし、あなたの検査室がBであるとすれば、いましなければ県の基準範囲の共有化委員会が作成中の手順書に従って、精密度と正確度を確認し、

の「基準範囲」を共有することである。

福島県における

「基準範囲共有化手順書」出来上がる

この手順書は福島県における基準範囲の共有化を円滑にすすめるために作成されたではじまる。三浦先生が夏休みを返上して書き上げた。



基準範囲共有化検討委員会メンバー（第2期）

委員長 矢沢 正隆

（基準範囲共有化委員会委員長、竹田総合病院）

1. 石川 弘巳

（県南地区臨床化学検査班長、白河厚生病院）

2. 遠藤 隆

（精度管理委員長、太田西ノ内病院）

3. 大花 昇

（外部精度管理委員、大原医療センター）

4. 川島 真由美

（会津地区臨床化学検査班長、坂下厚生病院）

5. 齋藤 市弘

（臨床化学部門精度管理委員、竹田総合病院）

6. 佐藤 紳之丞

（相双地区臨床科学検査班長、西病院）

7. 高橋 清明

（事務局担当常務理事、福島県立医科大学附属病院）

8. 馬場 弘美

（臨床化学検査研究班長、呉羽総合病院）

9. 松本 幸雄

（学術担当常務理事、太田熱海病院）

10. 三浦 裕

（日本臨床科学会認定臨床化学者、福島県臨床衛生検査技師会顧問）

副会長に就任して

福島県立総合衛生学院 山端陸夫

この度、平成14年度総会において副会長に選任されました。推薦を戴きました会員の皆様にご感謝を申しあげると同時に任期の2年間を会長の補佐と、担当になりました表彰審査担当として各理事と連携をとりながら業務を遂行したいと思っています。

また、医療制度改革が進む中、医療スタッフの一員として医療（患者）貢献を臨床検査技師として、あるいは検査部としてなにができるのか、しなければならぬのかその対応が問われています。地域社会のニーズに的確に答えられる臨床検査技師を目指し、さらに、「職能団体」としての活動も今まで以上に積極的に取り組み少しずついいから着実な成果を上げるよう努力したいと思っています。会員のご支援とご協力をお願い申しあげ挨拶と致します。



新理事のご挨拶

太田西ノ内病院 臨床検査部

遠藤 隆

この度、平成14年度（社）福島県臨床衛生検査技師会定期総会において、平成14年度および平成15年度の理事に選出されました。大変名誉なことではありますが、その責任の重に身の引き締まる思いでもあります。技師会の仕事については不慣れな部分が多いので、会員の皆様にご迷惑をおかけする事も多々在るかと思いますが、ご了承頂きたいと思います。ただ、新人には新人のやれる事も在るかと考えておりますので、その辺も見守って頂きたいと思います。初心を忘れずに、また、開かれた技師会の運営に勤めていきたいと考えて居ります。今後とも会員の皆様のご指導ご鞭撻のほど、宜しく御願い致します。

公募します！！

会誌 Vol. 40 「ふくしま」に掲載する研究論文、投稿して下さい。広報、金子（かしま病院）まで

情報 第3回日本糖尿病療養指導士資格試験

「わが国における糖尿病の適正な療養指導を発展普及させるため有能な糖尿病療養指導士の育成を図り、我が国の医療関係法令の下で糖尿病患者の健康および福祉の向上に貢献する」という資格内容で、臨床検査技師も受験可能です。第3回は2003年3月9日に実施が予定されています。すちなみに、第2回は全国で各職種あわせて2037名が合格。福島県の臨床検査技師は2名です。

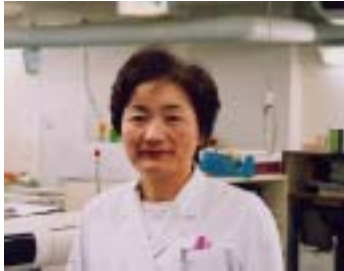
検査のお仕事

「糖尿病療法指導チーム医療に参加して」
(財)竹田綜合病院 臨床検査科

坂内 聡子

2001年6月、当院では臨床検査技師を含む12名の糖尿病療法指導士が認定され、2002年3月、チーム編成と活動計画を作成しました。このことで医師を中心とした看護部、栄養科、リハビリ科、薬剤科、臨床検査科等がチームを組み専門性を生かしながら糖尿病療法指導を行う基盤が作られました。

当
前か
の指
した。
化に
患者
察前



院では5～6年から自己血糖測定導を行ってきまさらに採血中央よる糖尿病外来の採血業務、診検査等と現在ま

で深く関わってきました。

また、昨年から教育入院クリニカルパスに参入しチーム医療の一端に加わり仕事をしています。環境の変化に戸惑うこともしばしばです。(今まであまり検査の外に出なかったせいでしょうか)

まず看護師さんのバイタリティーに驚かされます。そして患者さんに対しての自信のある堂々とした接し方など感心させられています。

教育入院では検査の説明をします。まだ新米のためか患者さんのペースに引き込まれてしまったり、専門的な質問をされてドキリとしたりして四苦八苦しています。しかし、患者さんが納得し満足された様子を見るとわたしも充実感を味わうことができます。特に、個々の患者データ説明は好評を得ています。数字はことば以上に説得力があり動機付けに役立ちます。反対に気にしすぎる人にはマイナス要因となりその辺が療養指導の難しい点だと思います。

本年度の活動計画の中で糖尿病教室の開催があり、検査科は8月と2月を担当します。月2回午後1時～2時までの1時間、糖尿病に関心のある方だったらどなたでも参加できる勉強会です。

8月の第1回目は「ヘモグロビンA1cってなあ～に」第2回目は「自分で測れる血糖値」のテーマで開催しました。顕微鏡を使って血球をのぞいたりもして大変良い手ごたえがありました。

このように私たちは新しい取り組みをどんどん取り入れて検査科の外に出て患者さんとの接点を増やしていくことや、他部門との連携を深めチーム医療を進めていくことなどにより、検査技師の領域の裾野を広げ患者さんとチームスタッフの信頼を勝ち得ながら、存在感をアピールできる検査技師を目指したいと思います。

いわき健康祭り

骨密度・血管年齢チェック大人気

いわきグリーンスタジアムを中心に第23回いわき健康まつりが開かれました。いわき支部技師会では骨密度(1台)と加速度脈波計(2台)を使って無料で測定を行いました。ちょうど健康に関心が高まっている昨今、老若男女で大変なにぎわいでした。

いわき支部ブースの入場者数は男性414名、女性922名 計1336名で、今年は昨年を経験をふまえて受診者の効率を上げる工夫もしました。



年代別では30代の受診者がダントツ



骨密度測定、このにぎわいぶり



説明をうける受診者の真剣な顔

My ブーム

坪よさこい福恋人”代表 原田仁稔

よさこいといえば、鳴子と派手な祥天、そして元気よさを想像するでしょうが、実は大切なことがあります。それは、礼にはじまり礼に終わる。つまり礼儀を重んじ、和を大切にするそれがよさこいの基本です。お祭り仲間が集まり、今年の1月に“よさこいクラブ(坪)よさ



こい福恋人(ふれんど)”チームをたちあげました。部員22名はもちろん坪井病院の職員で構成しています。

看護師、事務、栄養士、臨床検査技師、放射線技師と各職場から踊り好き、酒好き、お祭り人間を集め、毎週木曜日、5:30~7:00まで当病院の講堂で練習しています。年齢は疲れの残らない20代から若い人に負けないエネルギーをもっている60代までと幅広く、チームワークは抜群です。全員が踊れるまで、練習することをモットーに楽しく練習しています。

第2回うつくしま yosakoi 祭りでは、沿道の市民から坪井病院に対しての励ましの声援をもらったことで、勇気もらい、何か熱くなるものを感じながら踊ってきました。今しかできないそして今が旬のよさこいの魅力にひかれてしまった自分に、家族は比較的冷静な我が家もまたおもしろいかんけいであることを付け加えておきたい。

今後は、職員の結婚式への応援、イベント参加による地域住民に対するPR活動が主な活動になりますが、坪井病院の中で広報的な立場としての活躍も期待されています。これからも、人と人とのふれあいを大切に活動していきたいと思っておりますので、身近になにかイベントがありましたら一声おかけ下さい。まる坪よさこいふれんどチームの情報は坪井病院HPにも掲載しております。

URL: <http://www.tsuboi-hp.or.jp>

H4.1.5 許可申請

H14.3.17 うつくしま YOSAKOI 振興会設立祝賀会出席

H14.4.21 郡山市更正園 あすなる祭参加

H14.5.19 坪井病院職員結婚式応援参加

H14.6.8. 坪井病院職員結婚式応援参加 他多数

お知らせ

平成15年(社)福島県臨床衛生検査技師会総会並びに
第35回福島医学検査学会 開催要綱(抜粋)

1. 学会長 大花 昇(大原総合病院附属医療センター)
2. 副学会長 高橋清明(福島県立医科大学附属病院)
3. 実行委員長 菅野和典(福島赤十字病院)
4. 事務局長 藤野高志(いちかわクリニック)
学会事務局 いちかわクリニック
〒960-0112 福島市南矢野目字鼓田 6-1
TEL024(554)0303 FAX024(554)2521
5. 日程
5月24日(土)福島テルサ FT ホール
1) 公開講演(予定)
2) 平成15年度(社)福島県臨床衛生検査技師会総会
5月25日(日)福島県立医科大学
1) 一般演題発表:口演発表(発表7分、質疑3分)
スライド発表またはパソコン
2) ランチョンセミナー:3会場
臨床化学検査分野 協賛 第一化学薬品KK)
免疫血清検査分野 協賛 ダイナボット(株)
微生物分野 協賛 極東製薬(株)
3) 特別講演(予定)
6. 学会参加費 会員3,500円
7. 学会関連行事 懇親会
日時 平成15年5月24日(土)18:00~20:00
会場 福島ビューホテル
会費 3,000円

主催 社団法人福島県臨床衛生検査技師会
担当 県北支部

第35回福島医学検査学会演題申込要綱(抜粋)

演題申込締切:予備登録 平成15年1月18日(土)
当日消印有効(支部事務局経由)
抄録原稿 平成15年2月15日(土)
当日消印有効(直接学会事務局)
届出先:第35回福島医学検査学会事務局
皆様、たくさんの演題をお待ちしております。どうぞ
ふるってお申し込み下さい。

編集後記

七転八倒 つまずいたり ころんだり するほうが自然なんだな 人間だもの 相田みつをさんの詩を採血されながら、じっとみていた年配の患者さん。「このごろ転んでばかりいて、とても落ち込んでいたのよ。でもね、これを見てああ、転んだっていいんだって思えました。今日はここにきて本当によかったわ」感動でいっぱい目に、採血しているこちら胸がいっぱいになりました。